

『学会見聞記』

American Academy of Orthopaedic Surgeons(AAOS) Annual Meeting
2017に参加してThe report participated American Academy
of Orthopaedic Surgeons(AAOS) Annual
Meeting 2017金沢大学医薬保健学総合研究科 整形外科学
(博士課程3年)

宇賀治修平

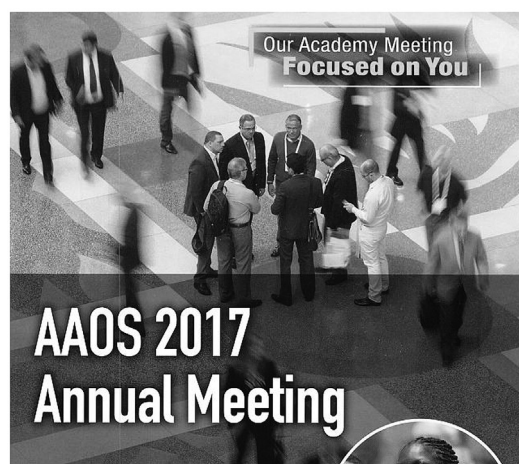
2017年3月13日から17日までアメリカ、サンディエゴで開催されましたアメリカ整形外科学会 (AAOS, Annual Meeting of The American Academy of Orthopaedic Surgeons)に参加いたしましたので報告いたします。金沢大学整形外科教室からは21演題 (Lecture 1, Paper presentations 7, Poster 12, Scientific Exhibit 1) を発表しました。アメリカ全体の整形外科学会であり、私が今まで参加した学会のどの学会よりも規模が大きく、参加者も3万人超で、国籍、人種も様々であり、まさしく人種のサラダボウルといった印象を受けました。私は残念ながら、e-posterのみの参加でしたので、実際の口演はなく、アメリカデビューとはなりませんでした。一緒に働いている上級医の先生方が次々に発表し、質問に答えるさまは非常に励みになり、来年は自分が口演を勝ち取り、発表したいというモチベーションアップにつながりました。最終日の土屋教授のlectureでは金沢大学で行われた治療の数々が報告され、参加者を興奮のつぼにおとし置いていました。4人の日本人のlectureに対して、同時の質問時間ではありましたが、ほぼ全員が土屋教授へ質問をされていて、当科で行われている治療が海外でも注目され、世界中の人を魅了しているということが伝わってきました。

この学会に参加して、一番衝撃だったのは、自分が専門としている領域である足の外科の位置づけでありました。日本国内ではあまりにニッチな領域というか完全にマイナーな領域であり、日本足の外科学会も他領域に比べ、小規模なものと感じていましたが、本学会での足の外科領域には非常に多くの参加者がいて、日本と海外での足部領域に対する温度差の違いを感じました。また、変形性足関節症に対して、日本国内では、人工足関節置換術はあまり普及しておらず、足関節固定術を行うのが治療の主軸となっていますが、アメリカでは日本では足関節固定術を行うような症例もほぼ全例が人工関節置換術施行するという風潮があり、治療方針の違いも感じることができました。これは、アメリカで使用できる人工関節が日本では使用できないという面にも起因すると考えられます。この風潮は以前からある程度は聞いてはいましたが、本学会に参加して、自分が今現在行っている治療が常にworld standardではないということを知り、culture shockでもありました。

また機械メーカーが開催するdinner partyは一つの通りを貸し切って行われ、そこにあるすべての店が料理を出すというスケールの大きなpartyで、圧倒されました。封鎖された通りに対して、怒り狂っている一般人のおじさんは恐ろしかったですが、規模が大きく、参加者が多い学会には企業も並々ならぬ力を入れていることがわかりました。海外学会に参加することで日本国内では知り得ない知見を肌で感じることができ、自分の見聞を広めることができたこと、大変有意義な学会参加となりました。

学会外ではサンディエゴの街並みや温暖な気候を楽しむことができ、非常に気持ちのいい日々を過ごすことができました。また、普段参加する海外学会は自分の所属する班の人だけで行くことが多いのですが、今回の整形外科全体学会では普段一緒にいられないような他班の先生とともに行動することができ、皆さんの素顔が見られて、楽しい時間を過ごすことができました。時間があるときにバスと電車を乗り継いでサンディエゴ動物園に大学院生5人で行ってみました。ワクワクしていききましたが、おっさん5人ではそんなに盛り上がることもなく、園内を1周するバスでは時差ぼけのせいもあってか、全員が眠りにつきまして、非常に楽しい思い出となりました。

最後になりましたが、このような学会参加という貴重な機会や時間を頂き、深謝申し上げます。



Final Program

Meeting Dates: March 14 - 18

Exhibit Dates: March 15 - 17

San Diego, California

AAOS
AMERICAN ACADEMY OF
ORTHOPAEDIC SURGEONS